



小学校低学年における ユニバーサルデザインを意識した 学級・授業づくり

大館市立成章小学校 教諭 宮野 田鶴子

1 はじめに

学級に複数名いる支援を必要とする児童を学級づくり・授業づくりの指針にし、環境を整えたり、支援の仕方を考えたりすることで、学級の全ての児童にとっても、楽しい学級、わかる・できる授業を目指したいと考え、「ユニバーサルデザイン」を意識して実践を行った。

2 具体的な取り組み

(1) 環境づくりについて

①場の構造化

ひと目で分かる いつでも整頓

写真を手本にして整頓ができるようにし、本棚、ロッカー、机の引き出し等の整頓を指導した。



【ロッカーの整頓】

②刺激量の調整

刺激をコントロール

刺激に反応しやすく、人や物に気をとられて集中できない児童への配慮として、教室に可動式の壁を取り付けたり、椅子にテニスボールを付けたりして対応した。また、支援を必要とする児童の座席は前方の端にして、担任や支援員が声をかけやすいようにし、テストや練習問題をやる時には、友達の動きに気を取られないよう、机を壁の方に向けて取り組ませた。

③ルールの明確化

学習に集中するための約束

学習の約束は掲示物や合い言葉を使って、繰り返し指導した。全校で「話し方名人」「聞き方名人」「話型」等を統一して教室に掲示して活用した他、低学年の入門期の指導として、鉛筆の持ち方と書く姿勢は、合い言葉で指導した。これは、定着しやすく、声もかけやすかった。

(2) 授業づくりについて

①時間の構造化

単元の学習計画の提示

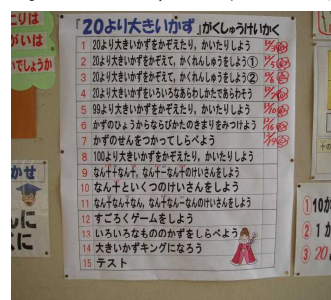
今日は何を学習するのか、全体の中でどの位置にいるのかが理解でき、見通しがもてるように、児童にわかる言葉で単元の学習計画を作成して掲示した。

1時間の学習の流れの掲示

1時間の中で今どの位置にいるのか理解でき、次に何をやるのかが視覚的にわかるように1時間の学習の流れを黒板の端に掲示した。

時間の区切りを明確にする

先が見えずに集中力を欠いたり、時間を計画的に使えなかったりする児童がいたので、タイマーや算数の教具の時計を活用し、「何分間でやる」「長い針が何までに終わらせる」と活動を予告し、提示した。



【算数の学習計画】

② 情報伝達の工夫

教室以外でも活用できる提示

教室以外での学習の際に、スケッチブックや小黒板を活用した。これは、教室で説明したものをそのまま外に持って出て行けるし、次の時間にも使うことができる。また、聴覚情報は消えていくが、視覚化されると残っているし、確認ができる。

話し方・書き方のスタイルの提示

多くの情報を整理することは難しいので、話し方や書き方のスタイルを示した。スピーチや質問の話型は作文を書く際にも活用できるし、算数で用いている穴あきの話型は、いつも同じパターンで考えていけるので、自分の考えを整理するのに有効であった。



【ことばの木】

③ 参加の促進

既習事項の掲示

A1判が印刷できるプリンターを活用し、教科書などからスキャナーで取り込んだものを授業で使い、そのまま学習コーナーに掲示した。実際に授業で使ったものを張ることで、その授業のことを思い出すことができ、復習にも活用できた。

補助教具

教科書やプリントの文字を目で追いながら読むのが難しい児童のために、カラークリアファイルを行に合わせて切った「スリット」を作って使用した。

ペア・グループ学習

少人数で自分の考えを発表し合える場面をもつようにした。発表の時に、おもちゃのマイクを使い「インタビューごっこ」をしたところ、大変意欲的に話せるようになった。



【インタビューごっこ】

支援員との協力

特に支援を必要とする児童2名は座席を最前列にし、支援員の動線を考えて、2人を並べて座らせた。また、毎日「支援記録」という日誌を書いてもらい、週末に見せてもらった。そして、週に一度、担任と支援員とで情報交換などをする打ち合わせの時間を設け、行事や学習計画に合わせた支援をお願いした。

④ 学習内容の構造化

授業のパターン化

授業の組み立てをできるだけパターン化して進めることによって、子どもたちは見通しがもてる。今やることが分かると、安心感もあるようだった。

板書と手元（教科書、ノート、シート）の一致

子どもたちに渡したシートを拡大して黒板に張り、書き方を示したり、ノートのマス目の字数と板書が同じになるようにしたりした。また、教科書で使われている図などもスキャナーで取り込んで、できるだけ同じものを使うようにした。

3 成果と課題

- 学びやすい環境づくりをすることで、学習や作業が効率的に行われ、効果も上がった。また、それは学習面だけでなく、学級づくりにおいてもよい影響があった。
- 時間や学習内容を構造化することで、児童も教師も見通しをもちながら学習を進めることができた。
- 支援を必要とする児童はもちろん、上位の児童の力を伸ばすための学びにも繋がった。
- 授業や生活の困難さ等の実態把握をしっかりと行い、支援員との関わりを含めた有効な支援方法を探る。
- 学校体制の環境づくりや授業改善を行い、指導力の向上を図る。